

句佛上人 句碑



「空正の松 焼枯して久し 今其蹟を
つかんとて 手植を乞はれければ
緑せよ 松籟鐘に 和するまで
句佛」

現在も豊橋別院に残る梵鐘(寛永21年
鑄造)の願人である高須九太夫こと釋空正
(くうしょう)が植えた「空正松」は、明治4年の
火災で焼枯してしまいます。昭和11年、東
本願寺第23代彰如(句佛)上人の御手によ
って2代目「空正松」が植えられました。
その折に上人が詠まれた句が石碑となっ
て別院境内の東南角に置かれています。

その松も先の大戦の空襲により焼けてし
まいましたが、梵鐘は戦時中の供出を免れ
別院の歴史とともに今も鐘の音を響かせて
います。

主な年間行事

1月1日	修正会
2月25日	真宗講座 I
3月	彼岸会
4月19～21日	報徳会
6月20日	真宗講座 II
7月14～17日	夏之御文拝読
9月	彼岸会
10月25～28日	報恩講

毎週日曜日 朝 日曜講話

アクセス



〒440-0895

愛知県豊橋市花園町8

☎0532-52-5083

e-mail ; y-gobou@tees.jp

豊橋駅東口より徒歩8分

【吉田御坊】 真宗大谷派 豊橋別院



別院の歴史

豊橋別院の前身吉田御坊誓

念寺ねんじの創立は、1644(寛永21)年、梵鐘の銘文に、誓念寺は本願寺付属の道場である旨を本願寺13代宣如上人せんじょうが誌すことに由来する。御坊の濫觴らんしやうは、1534(天文3)年創立の吉田川毛道場よしだかわげともいわれているが、1583(天正11)年、吉田惣道場よしだそうどうじやうに証如上人しやうじょう影像が顕如上人けんじょうより授与される。さらに、1595(文禄4)年に顕如上人影像が、1605(慶長10)年開山親鸞聖人御影しんらんしやうにん きやうじょうが教如上人より授与され、後者には「誓念寺惣道場」と裏書きにあつて寺号が見えている。この川毛道場の後身が現在の浄円寺じやうえんじ、正琳寺しやうりんじといわれ、さらに應通寺おうつうじ、仁長寺にちやうじ、蓮泉寺れんせんじの各寺が、この周囲に移転して、寺内を形成したようである。その後、吉田(現「豊橋」)の城下

町・宿場町としての地理的重要性が高まり、宣如上人せんじょうより本願寺懸所かけしよに取り立てられ、これらの五カ寺が役寺となった。

以後の江戸時代の御坊については資料が少なく不明瞭であるが、1836(天保7)年たつじょうに達如上人から再建の命があり、募財や材料調整もなり着工されかけたが、1858(安政5)年に本山両堂が類炎し、急遽普請中の当御坊建築用材をすべて本山へ寄進することになり、阿弥陀堂に用いられたという。

その後において漸次堂宇等が造営されたようであるが、1871(明治4)年に本堂縁下より出火し、境内の多くを焼失してしまった。廃仏毀釈の風潮の中、一時は廃寺の命を受けるが、地元門末の存続運動もあり、「講究所」を経て1879(明治12)年に「豊橋別院」が公認され、同時にごんにょう 厳如上人からの消息も発せられた。2年後、本堂・御殿・庫裡・女人

会所等が建ち、婦人会はじめ東三河の中心道場としての機能を回復した。

ところが1945(昭和20)年6月19日の豊橋空襲により、またもや灰燼に帰することとなる。焼土の中からの復興は困難をきわめたが1950(昭和25)年仮本堂が再建され、1985(昭和60)年に現在の本堂が再建され、1994(平成6)年、別院開創350年記念法要が厳修された。さらに2001(平成13)年れんにょうに蓮如上人五百回御遠忌法要、2015(平成27)年、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が厳修され、徐々に境内伽藍が整備されている。

四世紀にわたる御坊・別院の歴史は、崇敬部下門末の並々ならない懇念に加え、明治再興時の輪番制施行以後も変わらず護持と教化を担った役寺五カ寺の役割に、特筆すべきものがあるといえよう。

(文/青木馨氏『別院探訪』より)